**栃木中央地域包括支援センター　担当**

* **日　時：　令和５年6月20日（火）午後2時1０分～２時4０分**
* **会　場：　栃木市役所**
* **事例数：　1ケース（R4年9月20日検討した事例の振り返り）**
* **参加者数： 10名**

**事例提供者１名、助言者６名、包括職員2名、傍聴者2名**

**巨大結腸症と慢性閉塞性肺疾患があり、医学管理と食事管理が重要な**

**74歳男性**

**〈目標〉1日：家の外に出る。**

**1年：体調を崩さず自宅で生活できる。**

**《前回会議での支援策》**

**・腸閉塞の再発防止を行うため、下剤のコントロールを行う。食事も重要となる。**

**・誤嚥防止のためにも義歯の使用をすすめる。**

**・薬の飲み忘れ防止のためアプリを使用してアラームをセットする。**

**・坐骨神経痛もあるため、生活の中で運動を行っていく。**

**・高カロリー、高蛋白質の摂取が必要なため、オリゴ糖やMCTオイルを使用する。便秘を予防するため、食物繊維は水溶性に、海藻類等を摂取する。**

**・経済的に不安な場合には、社会福祉協議会で行っている生活困窮自立支援事業に相談する。**

**【支援方針】**

**・坐骨神経痛はあるが、無理をしないで生活の中で運動しながら自立した生活を維持していく。**

**・食生活を見直して腸閉塞の再発を予防していく。**

**《支援結果・状況》**

**達　成**

**・消化器内科への定期受診は継続できている。ガスが溜まった際も、訪問看護により処置ができており、腸閉塞の再発なく状態は安定している。**

**・自宅の周りを歩くなど、運動をするようになった。**

**・入浴は一人で入る頻度が増えてきている。**

**未達成**

**・義歯は装着を勧めたが、本人はつける気がなく、歯科受診も希望がない。**

**・外出機会が少なく、人との交流が図れていない。**

**・母親死亡により年金が少なくなるため、適切な金銭管理が必要。**

**《特記事項》**

**・母親が亡くなり、精神的に落ち込みが見られた時期はあったが、現在は徐々に安定してきており、活動量も増えて　　きている。**

**・誤嚥、腸閉塞の防止のため、今後も食事内容の見直しと口腔機能の維持を図る。**